

## ミヨシグループ MIYOSHI GROUP & CO.,LTD.

ミヨシグループは花、野菜の種苗業を通じて常に生産者、消費者にとって新しい品種を生み出し、驚きと感動を提供する企業グループとしてグローバルに展開しています。

- ✳ 常に先掛けて行動する「先駆者」であり続け
- ✳ 常に現場に即した「お客様第一主義」の精神で
- ✳ 「種苗業」を通じて園芸業界へ貢献するを企業理念としております。

### ～ジャパン・フラワー・オブ・ザ・イヤ－2014受賞～

ジャパンフラワーセレクションにおいてジャパン・フラワー・オブ・ザ・イヤ－2014を受賞しました。

切り花部門で、株式会社ミヨシが出品した「アネモネ F1 モナリザ ワインホワイト」が、ガーデニング部門で株式会社エム・アンド・ビー・フローラ社が出品した「ベゴニア ワッパー レッドブロンズリーフ」がそれぞれ受賞いたしました。



**注目度向上！**  
**アネモネ F1モナリザ ワインホワイト**

これまで様々な品種を世界中から導入し日本の栽培や日本人の嗜好に合致する品種を追い求めてまいりましたが、それらの条件を満たす品種の発見には至りませんでした。そのような中、2012年に導入した品種群の中から今回ジャパンフラワーセレクションで入賞した「モナリザ ワインホワイト」を見つけ出すことに成功しました。この品種は既存の品種と比較して、大輪・新規性のある花色・花持ちの良さといった特徴を兼ね揃えていました。この特性はこれまでのアネモネのイメージを一新する特性であり、消費者の皆様にあネモネの魅力を再認識して頂くことが出来ました。この品種の登場によりアネモネという花材をあらためて評価する方々が増え、注目度が向上しています。

### ～2020年夏のオリンピック商材として期待 ベゴニア ワッパー レッドブロンズリーフ～



エム・アンド・ビー・フローラでは「猛暑でも楽しめる花」をコンセプトに夏商材の商品導入を行っています。

非常に強健で梅雨の期間中や真夏の屋外でも大きく生長し、大輪の花を咲かせるベゴニアです。

春から霜が降りるまで3シーズン(春、夏、秋)楽しめます。通常のベゴニア センパーフローレンスと比べ5倍程度の草丈まで生長し、1花の大きさも約3倍となり迫力があります。ワッパーシリーズは、株が大きく生長する分、少ない本数でも広い面積をカバーすることができるため、ランドスケープ用途としては最適な品種です。2020年の夏のオリンピック商材としても活躍を期待しています。

### ～MPS認証への取り組みは 社員のモラルアップにつながりました～

MPSに取り組み、まず私たちが考えたのが農薬の問題です。ヨーロッパですでに使われていない毒性の高い農薬を、日本では未だに使っている現状に、これではいけないとそのような農薬の使用を一切やめました。MPS認証を取得するためには定められた環境基準をクリアする必要があるため、私たちもこのように出来ることから積極的に開始しました。農薬・肥料・燃料等の使用について記録しデータ分析を行うことで、やるべきことが明確になり自ずと環境への意識が高まりました。

始めたばかりの頃は忘れないように記録するのが少し大変でしたが、いつの間にかそれも習慣になりましたし、社員がそれぞれルールを作って取り組むようになったことで、今では各自のモラルアップにつながったと確信しています。

### ～ミヨシグループとしてのMPSに対する 更なる取り組み～

- 1) 忌避剤・防草シート・防虫ネット等の積極的使用
- 2) グループ企業全体での生産資材の確認
- 3) グループ全体での使用農薬情報の共有化及び使用方針決定
- 4) 冬季利用ハウスの集約によるエネルギー使用量の減少

今後も、現状に満足せず、更なる改善を日々意識して「環境負荷低減」に取り組んで参りたいと考えています。

(株)ティ・エム・ボール研究所

蛭田雅彦

## ～日本のプラグ苗生産では最大・ 環境配慮の花生産を目指す～

(株)ティ・エム・ボール研究所は、1985年3月に設立された、プラグ苗を中心とした、花苗生産販売会社です。事業所は、ティ・エム・ボールが4箇所、そこに子会社の(株)大分ボール種苗センターを加わり、全国に5箇所あります。そのうちティ・エム・ボール本社(千葉)と大分ボールは通年で生産を行い、その他の北海道、栃木、長野では高冷地という地の利を生かし、限られた期間だけ生産を行っています。

社員は全国で20名、その他にパートさんが約100名働いています。

生産している作物数・品種数は多数あり、昨年度は栄養系の品目を入れて約400品目、品種数では3,000品種以上の花苗を生産しました。切花の主要品目はリシアンサス、デルフィニウム、アネモネ、ランキユラス、キンギョソウ等で、花壇苗の主要品目はベゴニア、ビンカ、ペチュニア、インパチェンス、プリムラ、デルフィニウム、ランキユラス、パンジー、ビオラ、サイネリア等です。

特に花壇苗については、基本となるトレイに390穴のHEXトレイを使用しております。これは他社とは違う特色で、トレイの内部に設けられた空気穴が通気性を確保するため、406穴に比べて徒長しにくい構造になっています。しかし、その分培土が規則性のない乾き方をするため、水管理が非常に難しいです。



プラグ苗

ティ・エム・ボールという名前は、株主である(株)トーマン(現: アリスタライフサイエンス(株))、(株)ミヨシ、(株)みかど育種農場(現: みかど協和(株))、そしてアメリカに本拠を持つBall社の頭文字を取って付けられました。

主要な取引先は、(株)ミヨシ、(株)エム・アンド・ビー・フローラ、みかど協和(株)、カネコ種苗(株)、(株)HIJです。

当社がMPSに参加を決めたのは、2007年に親会社であるBall社がそれまで5つあった企業理念、

1. 世界中どこの市場でもNo1サプライヤーになる。
2. 花卉産業において、エキサイティングな市場を創出する。
3. サービスにおいて、最初に選ばれる企業になる。
4. コスト意識の改善を図る。
5. 花産業の未来を育てる。

に、6番目として、“環境に優しい企業を目指す。”を加えたことから始まります。世界中にあるBall関連企業約40社が、その企業理念に基づき行動を開始しました。

現代の花産業の大きな流れの中で、その根幹に位置し、日本のプラグ苗生産会社としては最大規模を自負する当社がMPS参加を決めたのは、その企業理念と、花を生産する最初の段階からMPSを始めなければ、消費者に届く花は真に環境に優しい花ではなくなるという思いからです。この仕事をする上で、お客さんから信頼を得るといことが如何に重要かという事を、何度となく起こした失敗から、嫌というほど味わってきたことも理由の一つにあります。



昨年3月にMPS-ABC参加者に認められ、実際にその作業を始めてみると、もともと資材購入、資材入庫管理等の管理作業は全てパソコン上で行っていたためスムーズに進みました。問題になったのは、高冷地での栽培で夏季にも燃料を使うことです(長野農場では9月から、発芽させるハウスでは8月でも暖房をつけています)。それと、多品目を栽培することもあり、多種多様な害虫、病気の対策をせねばならず、認証上ランクの低い農薬を使わざるを得ない状況にあることです。また、多様な品種に散布するため、薬害が出にくい農薬というのが大前提にあることも、農薬の選択肢を狭める原因になっています。

今年の8月31日付けで認証されることが出来ましたが、我々の目標はあくまでも環境にやさしい花苗栽培です。地球環境に配慮をしながら企業活動を行うことは、既に世界的な流れであり、それは当社にとっても例外ではありません。また、Ballグループの一員として環境に配慮した花生産を目指すという目標とは別に、我々はこの道を進むことがいつか日本の花産業を活性化させることに役立つと信じています。Aランクへの道のりは遠く険しいですが、目標は高く、着実に歩み続けていきたいと思っています。